

# 教育実践定期研修員論文

< 37 編 >

# 説明的文章の読解過程 における板書のしかた

長岡市立深沢小学校教諭

小 栗 正 和

## はじめに

これまで、板書というと、文字のじょうずへたや筆順、大小等に気をくばりすぎ、知識・技能の定着のための板書が、ややおろそかにされてきた感があった。

国語科では、聞く、話す、読む、書くことの活動を通して、その教材を学習し、日常生活に必要な国語の能力を養い、言語生活の向上を図ろうとしている。

したがってそれらの教材は、具体的な目標をもっているものである。学習指導にあたっては、どの教材も目標達成のための板書をしなければならない。とくに、説明的文章の読解にあたって、適切な板書のしかたがあるはずである。

学習効果をあげ、学習目標によりよく到達させるため、教材のねらいに、最もふさわしい板書のあり方をさぐりたい。

## 1. ひとつの実践例

1. 単元名 説明文を読む (新編 新しい国語 東書 5年下)

2. 題材 (一)文字の働き

3. 題材のねらい

ア 見出しや段落に注意して、書かれていることがらを読みとる。

イ まとめのことばと具体例に注意して、書かれていることがらを読みとる。

ウ 興味をもったことを、参考書や辞典等を使って、自分でさらに深く調べる技能、態度を身につけさせる。

4. 指導計画

第一次 文字についての話し合いと全文の通読をする。一時間  
文字の果たしている役割りを読みとる。一時間 (本時)

第二次 評価。

5. 本時の指導実践例 (昭和40年12月7日第三校時)

○ ねらい、段落の初めにあたることばに注意して、書かれていることがらを読みとる。

教師 この前は、文字の働きのところを読んで、大体、どんなことについて書いてあるかを勉強しました。今の時間は、段落の最初のことばに気をつけながら、その内容をくわしく調べていくことにしましょう。

(一) 文字の働き (と板書した。)

教 では、H君、読んでください。それぞれの段落のはじめのことばに注意して、聞いていることにしましょう。

H 音読。

教 では、次の人、もう1回読んでください。内容を発表してもらいますよ。

O 音読。

教 なかなか、よく読めました。この文章の話題はなんですか。

○ 文字の働きです。

教 そう、文字の働きなんだがね。それを、作者はなんといっていたかね。第一段落のはじめに、なんと書いてありますか。

○ わたしたちの生活に、文字はどんな役わりを果たしているだろう、と書いてあります。

教 そうだね、なるほど。そのとおりなんだが、文字の役わりとなにとの関係かな。

○ 文字のない時代です。

教 うーん、そうかな。ほかに。

○ わたしたちの生活と文字との関係。

教 そう、うまい。最初に、「わたしたちの生活に、文字はどんな役わりを果たしているだろう。」と書いてありますね。そこに、線を引きなさい。この文章の話題は、そうすると、わたしたちの生活と文字の役わりということになりますね。

わたしたちの生活の役わりとの関係 (と板書)

教 で、このことを調べるために、作者は、まず、なにについて考えてみようといっていますか。

○ 文字のない時代の生活を考えてみよう、と書いています。

文字のない時代 (と板書) (黒板の中央に、横線を一本ひき、その上部に)

教 そのとおり。では、人類が、文字を持っていなかったのは、今からどれくらい前のことですか。

○ 数千年前までです。

教 それはどこに書いてありますか。第二段落の一番はじめです。

数千年前まで、(と板書) |

教 それじゃね、文字のなかった時代に、人類はなにかにこまっていませんでしたか。

○ 口から出ることばは、声とどくはん囲の人にしかとどかなかったから、遠くの人にことばを伝えるのは、容易なことではなかった。

教 それでいいんだがね、まだ、ほかのことに気づいた人はありませんか。

○ 後の時代に伝えようと思うと、さらにたいへんな努力が必要であった。

教 なるほど、そのとおりなんだがね。それらのことが、教科書のどこに書いてあるか、わかりますか。指をあててごらんさい。はい、いいですよ。でも、今言ったのは、教科書のとおりだね。それを、短く言えないかな。

○ 口から出ることばは、声のとどくはん囲の人にしかとどかない。

教 だから、それを短く言うよ。

○ 口から出ることばは、遠くの人にはとどかない。

教 まあ、そういうことですね。あとをつづけて言ってごらん。

○ 近くの人にはわかるが、遠くの人にはことばはとどかなかった。

○ だから、遠くの人にことばを伝えるのは、容易なことではなかったし、後の時代の人に伝えようと思うと、さらに、たいへんな努力が必要であった。

教 そう、それを短くまとめて言えばよいんだよ。若干、めんどうかな。よく考えてみればわかるよ。

○ 応答なし。

教 じゃ、いいよ。とにかく、遠くの人にことばを伝えることは、どうだ、ということですか。

遠くの人にことばを伝える

ことは（と板書）

○ 容易なことではなかった。

○ たいへんな努力が必要だった。

教 まあ、そういうことですね。

→ 容易なことではなかった。

→ たいへんな努力が必要だった。（と板書）

教 では、次の段落のはじめには、なんとかいてありますか。

○ このような時代には、と書いてあります。

教 そう、そこに線をひきなさい。このような時代とは、どんな時代のことをいうのですか。

○ 数千年前まで。

教 数千年前まで、という言い方でもよいのですが、ほかに。

○ 応答なし。

教 それではね、数千年までは、いったい、どういう時代だったのですか。

○ 文字のなかった時代です。

教 はい、それでね、文字のない時代の人々は、どんなことにこまっていたか。

○ 後の人に、ものごとをくわしく正確に伝えることが、むずかしかった。

教 そうです。

ところで、そういうふうな、文字のなかった世の中は、少しずつ進歩、向上したでしょうか。

○ 進歩しなかったと思います。

○ 人類は、いつまでも同じようなことをくりかえしていたと思いま

す。

教 はい、たいへん、けっこうです。で、それらをまとめて一口でいうと、どういうことになるかな。

○ 文化は、なかなか、進まなかった、と書いてあります。

教 教科書のどこに、それが書いてありますか。

○ 49ページの終わりに3行目です。

教 そう、そこみんなわかったかな。

↓

文化は、なかなか進ま  
なかった。

教 さて、次の段落ですよ。段落のはじめに、なんと書いてありますか。

○ 文字が発明されてから、と書いてあります。

教 はい、そのとおりです。

文字が発明されてから

（と板書）

教 文字が発明されたので、そのころの人々は、どんなことができるようになりましたか。

ことばを記録することができるようになりました。

教 それでまちがいないね。

↓

ことばを記録することが  
できるようになった。

教 ことばを記録することができるようになったので、世の中は、進歩向上しましたね。文字のなかった時代の逆というわけですね。そうすると、人類は、どんなことができるようになりましたか。

○ 新しいことを作りだすことができるようになったと、書いてあります。

教 そうですね。

↓

新しいことを作りだすこ  
とができるようになった。

教 では、こんどは、若干、むずかしいよ。それじゃね、文字の働きとは、いったい、どういうことですか。この文のまとめだね。

○ 文字は、人間の生活を高め、文化を進めるのに、重要な役わりを果たしてきたことがわかる、ということです。

教 教科書のとおりだね。まあ、それでいいですね。みんな、それでいいかな。

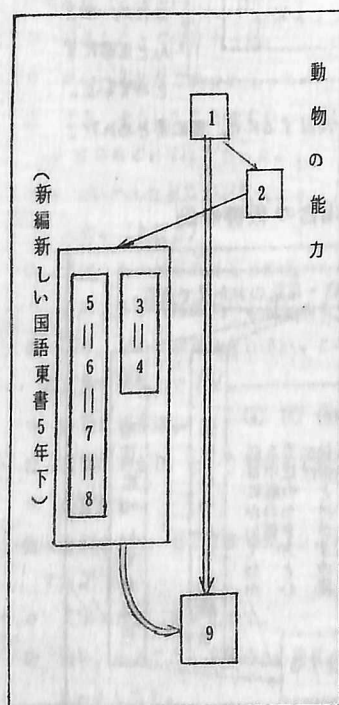


これらの指導のある過程では、段落の機能を説明してきたので、教師の助言によって、意味段落にまとめることもできるようになってきた。そして、段落相互の関係を図示することによって、文章構造を視覚的にうたえて、は握らせてきた。

このような板書の場合には、いわゆる「たんざく黒板」を使用すると指導に便利であり、文章構造を読みとらせるに効果的であった。だから、文章構造を図式化すると、作者の意図をは握することが容易であった。

#### 4 作者の意図を読みとる場合の板書の例

3でのべたように、文章の構造を図式化していくと、作者の意図を読みとることが容易であった。作者の意図は、多くの場合、作者の意見や感想となって表現されている。そこで、それらと事実や例とのちがいを読みとらせるため、前者に傍線をひかせた。また、作者の意図が、文章の上に表われている場合には、その部分をみつけさせた。そして、それらの部分を短くまとめた。さらに、段落と段落との関係が、どうつながっているかを図示すると、作者の意図を読みとることが容易であった。



左の図の番号は、段落番号であり、 $\Rightarrow$  はその結びつきの強さを示している。 $=$  は、段落の示す内容が等しいことを示している。これらのほかに、用いた記号として、 $\neq$  は前段落の示す内容を否定したり、逆のことをいっている場合等と、あらかじめきめておいて指導してきた。

それで、「動物の能力」とか、「橋」等、比較的、文章構造の簡単なものなら、それほどの抵抗なしに、このような図をかいて、作者の意図を読みとることができたが、やや複雑なものになると、作

者の意図を容易に読みとることはできなかった。

### III 板書の評価の観点

板書は、児童の学習活動をいっそう高め、学習効果を左右するものであるが、板書された内容を、次のような観点から自己評価してきた。その基本としたものは、板書の機会、方法、内容及び分量である。

#### 1. 板書の計画

- ア 学習のねらいに適した板書の方法がとられていたか。
- イ 板書が計画的に行なわれたか。
- ウ 板書の内容が、授業のながれにしたがって、適当であったか。
- エ 板書の方法にくふうがなされていたか。
- オ 板書の分量は、学習内容に即していたか。
- カ 文字の大きさ、位置、速さは効果的であったか。

#### 2. 板書の機会

- ア 授業のながれに適していたか。
- イ 授業の要点が明確にとらえられていたか。
- ウ 板書が授業のなかに生きていたか。
- エ 児童の発言内容が、板書に生かされていたか。
- オ 学習意欲を高めるに適していたか。

### むすび

板書と密接不離の関係にあるものは発問である。板書は、発問に即して考えられる。発問はもちろん、板書は、教師の指導、指示によって、児童を学習させていくための手段、方法である。したがって、よい発問、よい板書は、学習そのものや授業の質を高める最大の条件である。また、いつ、なにを、どこに、どのように板書するかという計画性をもたなければならない。

それには、教材のもつ特質を明確におさえる必要がある。そして、どういう発問を、どんな順序に、どう課していくか、また、その発問に即して、どういう文や語句を、どんな順に、どういうしくみで書いていくかを具体的におさえておかなければならない。

つまり、板書される具体的な内容として、

1. 書かれていることがらを印象強く読みとれるようにするための段落の中心語句や重要語句。
2. 作者の意図を読みとるための語句。
3. 並列的な内容や比較している内容をもつものは、表にまとめる。
4. 段落の相互関係を表わす文章構造図。
5. 作者の意図をは握するための文図。

等が、のぞましいと考えている。

板書は、文章をよりよく読解させる方法であるが、要は、教材をじゅうぶんに研究し、その教材のねらいにもっとも適合したものであり、児童にわかりやすいものでなければならないと思っている。

そうすることによって、児童の学習意欲をもりあげ、いっそう、学力が向上するものと考えている。